２０２６年度　３学年通信
友よ　我等は

甲府東高等学校
2026．10．23(金)
第８号

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

ポジティブ［積極的・肯定的］にネガティブ［消極的・否定的］を実践

学年主任　古屋　彰士

私の好きな時季がやってきました。朝晩に感じるひんやりとした空気、ゆでたての温かさを感じながら食べる栗、縁側でうとうとしながら読む本もいいのですが、この時季は私の頭の中がぐちゃぐちゃになる（できる）最高の時季なのです。朝、昼、晩、生徒の皆さんといろいろなことを一緒に考えさせていただける貴重な時季なのです。この一週間で、すでに崩壊しつつある私の脳内・・・。以下、その原因となっている問いの概要をいくつかご紹介します。

■ネガティブ・ケイパビリティ［すぐに答えのでない事態（あいまいさ）に耐える力］をもつことがより良い人間関係を構築するために、どのような影響をもたらすか、あなたの考えを述べよ。
■私たち日本人の中には、明治期に輸入された絶対的な「個人 individual」と、相手に応じてその都度生じさせる複数の人格とが同居しているが、この矛盾とどう向き合うべきか。
■「差別ではなく区別」の問題点を指摘せよ。
■「見て見ぬふり」をした、された経験から、感じたこと、考えたことを述べよ。

皆さんも少し考えてみてください。脳みそがとろけそうになりませんか？

ネガティブ・リテラシー［消極的な読み書き能力］という言葉がありますが、この 20 年ほどで「読む」ことと「書く」ことのパワーバランスが大きく変わったと言われています。以前は「読む」ことが日常の中心にあり、じっくり読み、じっくり考え、じっくり書くというのが主流でした。ところが今は、インターネットや AI の普及によって諸々のスピード感が増し、じっくり読む、じっくり考えるという過程を経ずに、ネット上に思いついたことを「書く」ことが主流となりました。このことの危うさについては皆さんすでにお気づきのとおりです。

「食欲の秋」を楽しみつつ、「ネガティブの秋」も楽しみ、脳みそをとろけさせてみませんか。

１１月の主な行事予定

１１月　２日（月）学校創立 50 周年記念行事（学校創立記念日　芸術鑑賞会を含む）
３日（火）文化の日
４日（水）５分短縮授業
５日（木）５分短縮授業　芸文祭グランドステージ・パレード
６日（金）▲カセット授業
６日（金）～７日（土）全統プレ共通テスト模試
１１日（火）保護者対象進路研修会（17 時～）第３回定期試験時間割発表（～１７日　学習強化週間）
登校時マナーアップ運動
１８日（水）、１９日（木）、２４日（火）、２５日（水）第３回定期試験
２５日（水）④クリーンキャンペーン
２６日（木）成績処理日（生徒休業日）
２８日（土）停電（９：００～１６：００）



deai

３年１組 副担任　田中　美香

先生方のお話を毎月楽しく読ませていただいていましたが、いつの間にか自分の番が回ってきました。４月から甲府東高校に勤めて、多くの出会いの中で、楽しく過ごさせていただいています。

何を書こうかと考えましたが、私が気に入っている１冊の本について紹介しようと思います。『Meaning of Life』という、写真とエッセイを集めた本で、何十年も前にアメリカで買いました。当時発行されていた雑誌『LIFE』の出版社が、「人生の意味」をテーマに出版したものです。写真や文章を通して、さまざまな立場や人種の人々がいろいろな考えを綴っています。

その中で、私が一番気に入っている文章は、指揮者の小澤征爾さんが書いたものです。小澤さんは、自分にとって人生の意味とは、「*deai*（出会い）」だと述べています。（以下引用）　(Ozawa, 1991, p. 146)

"There is a Buddhist term, *deai,* that is difficult to translate but perhaps best defined as "encounter." The meaning is more precisely a combination of chance and destiny, of a fate with a purpose...."　（仏教の言葉に「出会い」というものがある。訳すのは難しいが、おそらく encounter と定義するのが一番いいだろう。その意味は、より正確には、偶然と運命が重なり合ったもの、つまり目的を持った運命（縁）である…：田中訳）

今回久しぶりにこの本を読み返していますが、小澤さんの言葉を読むと、さまざまな出会いの不思議さ、ありがたさを改めて感じます。

近頃、昔の友人に再会する機会が増えましたが、振り返ってみると、私が進路を決めるきっかけのいくつかは、実は友人との何気ない会話だったりします。自分のことをよく見ていてくれた友人が何気なく言った言葉に新たな気づきを得て、それが英語を学ぶための進学を決めるきっかけになりました。また、偶然目にしたテレビのシーン、ラジオから流れてきた言葉、本や映画の中の一場面がきっかけになることもありました。きっかけはどんなところにあるかわからないものだと思います。

そして、決断のきっかけ、決め手は、今していることに一生懸命取り組んだり、色々な人と語り合ったり、様々な選択肢について真剣に考えているうちに、必ず見つかると思っています。それは、小澤さんが言うように、偶然と運命が重なり合ったもの、出会い、縁のようなものなのかもしれません。

皆さんは今、それぞれ進みたい道を見つけ、全力で頑張っていると思いますが、最後まで、努力をやめずに、後悔しないように進んでいってください。「あの時ああすればよかった」と後で思わないように、続けていくことで、納得ができる道をつかみ取ってほしいと思います。

前回、吉岡先生が、高校３年生の秋に皆さんの将来像などを聞くことについて書いていらっしゃいました。私も、高３の秋、そして冬に、自分の将来を切り拓くために全力で努力している皆さんと毎日を過ごせることを嬉しく思っています。精一杯努力し、最後まであきらめず、自分の目指すものをつかみ取れることを私も応援しています。いい秋、いい冬、そしていい春にしていきましょう。

出典　Ozawa, S. (1991). In D. Friend & the Editors of Life (Eds.), Meaning of Life: Reflections in Words and Pictures on Why We Are Here (p. 146). Little, Brown and Company.